

未来をつくる大学の研究室

最先端の研究を大学の先生が誌上講義！

45

文化の比較によって得た知見により 伝統的な民族文化を現代に生かす

金沢大大学院 人間社会環境研究科 かがみ はるや 鏡味治也研究室

地球に人類が誕生した時から、文化は始まった。以来、数え切れないほど多くの民族が、世界各地で独自の生活を営み、文化を築いてきた。ところが近年、情報通信技術の進歩などにより、生活の画一化が急速に進み、民族や地域が伝統的に受け継いできた知識と技術は顧みられなくなる傾向にある。我々は文化の多様性をどのように維持していけばよいのだろうか。金沢大大学院人間社会環境研究科の鏡味治也教授は、伝統文化を保存するだけでなく、活用の仕方を工夫することが鍵であると語る。

フローチャートで分かる鏡味治也研究室

大学院生の 主な出身分野

文化人類学

日本語学

歴史学

デザイン学

など

◎人類の文化について広く研究するため、特定の分野に偏らず、文系の多様な学部から学生が集まっている。また、世界中の民族を研究対象とするため、海外からの留学生も多く、2013年度は中国出身者が6人、インドネシア出身者が2人、ベトナム出身者が2人、研究室に在籍している。

研究にかかわる 学問分野と研究内容

考古学

歴史学

文化人類学

地理学

言語学

◎文化人類学は、文化を研究する学問との接点が多い。考古学における発掘調査の知識と技能、地理学における自然環境に対する知見、歴史学における文化的背景への考察力、言語学による発音の特徴分析などを、研究に取り入れている。

研究成果と 社会のかかわり

人類理解

現代生活への
民族文化の応用

など

◎民族や地域による文化や価値観の相違点、共通点を明らかにする文化人類学の知見は、人類の普遍性の追究につながり、人類理解に役立つ。また、少数民族に伝わる薬草を研究し、医薬品に応用するなど、伝統的な民族文化を現代の生活に役立てようとする動きもある。

ありふれた日常を注意深く観察し、探究する力が必要

文化人類学が求める学生像

あらゆる人間に対する興味

人間の日常生活への探究心

自分と異なる価値観への関心

文化人類学を学ぶためには、人間に興味を持っていることが必須の素養となります。文化を生み出すのは、人間だからです。人間に対する興味なくして、文化人類学の研究はあり得ません。

また、文化は、特別な知識や技術ばかりではなく、習慣や風俗など生活のあらゆる面に表れます。例えば、あくびをする時に口を手で隠すかどうか、くしゃみをする時にどのような声を出すかというように、普段の何げない立ち居振る舞いにも反映されるのです。研究では、人間の日常をしっかりと観察することが必要ですから、生活の特別な面だけでなく、ありふれた面にも興味を持ってなければなりません。

そうした研究を、世界中の民族を対象に行います。自分とは異なる価値観に対する強い好奇心が求められ、それがあからこそ、調査のために長期間現地に滞在したり、現地の人々と積極的にコミュニケーションを図ったりしようとする意欲も生まれてくるのです。

高校生へのメッセージ

人間は、不思議な生き物です。同じ人でも、美しい時もあれば醜い時もあり、恐ろしい時もあれば哀れな時もあるというように、さまざまな面を持っています。小説、特に古典的な名作には、人間に対する洞察力に満ちた作品がたくさんあります。高校生のうちになるべく多く読み、人間というものに対するイメージを豊かにしておいてください。

人間は、不思議な生き物です。同じ人でも、美しい時もあれば醜い時もあり、恐ろしい時もあれば哀れな時もあるというように、さまざまな

研究概要

普遍的な価値観を 浮かび上がらせ 人類について考察

私が大学に進学した1970年代前半は、戦後日本の転換期でした。経済成長によって生活が豊かになり、便利なものや新しいものばかりでなく、日本の伝統的な工芸品や建築物などが注目されるようになりました。古寺探訪が流行し、私も京都や奈良の古い寺を見て回ったものです。また、海外旅行が身近なものとなり、外国の遺跡などを紹介する書籍が相次いで刊行されました。日本と海外の文化について論じた一般書、石田英一郎先生や中根千枝先生の学術書などを熱心に読む中で、「世界中の文化についてもっと知りたい」という気持ちが高まり、私は文化人類学を研究するようになったのです。

文化人類学では、世界中の人々の言語や習慣、政治、経済、信仰など、生活にかかわるあらゆる事柄を観察し、その特徴を比較します。そして、民族や地域、時代などによって、人間の文化にどのような相違点、共通点が見られるのかを研究するのです。

私はインドネシアの文化、特にバリ島に住む約300万人の民族、バリ人の文化について研究しています。インドネシアはいくつもの民族から成り、どの民族も独自の文化を営んでいます。バリ人に注目した大きな理由は、その宗教文化にあります。インドネシアの大半の民族は、13〜14世紀に掛けて伝来したイスラム教の影響を強く受け、それ以前に伝来していたヒンドゥー教の文化を失ってしまいました。しかし、バリ人には今なおヒンドゥー教徒が多く、土着の宗教と習合した独特の祭祀や儀礼を行っています。それを研究することは、インドネシアの他の民族がかつてどのようにヒンドゥー教を信仰し、その文化を築いていたのかを探るための有力な手掛かりとなると考えたのです。

文化人類学では人々の生活を間近で観察するために、現地調査を重視します。私も、大学院生だった約30年前から、毎年のようにバリ島の村々に足を運び、バリ人がどのように暮らしているかを調べています。村に住み込み、バリ人と間近に接していると、日本人の感覚と大きく



鏡味治也 教授

かがみ・はるや 金沢大学大学院人間社会研究域人間科学系教授。金沢大学博士課程教育リーディングプログラム「文化資源マネージャー養成プログラム」プログラムのコーディネーター。東京大学大学院社会学研究科博士課程中途退学後、野外国族博物館リトルワールド研究員、金沢大学文学部助教授を経て現職。主な著書に『バリ島の小さな村で』（洋泉社）、『キーコンセプト 文化』（世界思想社）など。



写真 遺体を火葬場へ運ぶ行列。バリ人の宗教観では、遺体も汚れたものと見なされる。火葬は、汚れを祓うための儀式の1つである

異なるところがしばしば見られます。最も印象的だったのは、遺骨に対する価値観です。日本人は、納骨するまでの期間、遺骨を自宅に安置することがありますが、バリ人は遺骨を宗教的に汚れたものと考えているため、決して自宅に持ち込みません。ある時、バリ人と親交のあった日本人が亡くなり、「バリ島の海に散骨してほしい」という願いを果たそうと、遺族が日本から村を訪れたことがありました。そして、何げなく遺骨を持ったまま村人の家に入ろうとして、大騒ぎになったのです。その様子を目の当たりにして、私はバリ人の遺骨への禁忌がいかに大きいかを、身をもって理解できました。

このように、異なる価値観がぶつかり合う瞬間に立ち会えることも、現地調査を行うだいご味の1つです。抱く感覚に違いはあるにせよ、遺骨を特別視しているのは、日本人もバリ人も同じです。そればかりか、実は、そうした意識は世界中の多くの民族に、古くから共通して見られます。つまり、昔から人類が、骨という物質に執着しているわけです。このことから、信仰する宗教の枠を超えた、遺骨に対する人類の普遍的な心理がうかがえます。文化人類学では比較によって価値観の違いを把握するだけでなく、共通点をも考察することで、人類に対する理解を深めていくのです。

みられなくなり、やがて廃れてしまおうでしょう。ただ、伝統的な知識や技術には、未知の可能性が秘められています。前近代的な方法や事物の中にも、工夫次第で現代の生活に役立つものがあるのです。例えば、アフリカや南米などの少数民族に伝わる薬草の成分を分析し、医薬品に応用しようという試みは、盛んに行われるようになりました。また、今は無理でも、将来、科学が更なる進歩を遂げれば役立てられるようになる民族文化もあるはずですよ。いつか必要になった時のために、各地の文化一つひとつを記録し、保存しておくことが重要なのです。

研究の展望
伝統的な民族文化を現代に応用する

近年、情報通信技術や物資の流通システムの発達などに伴い、世界中で生活の画一化が進んでいます。例えば、Tシャツにジーパン姿の人々は、どこを旅行しても珍しくなくなりました。現代的な生活に適さないと見なされた文化は顧

文化人類学の知見は、失われつつある文化を保存し活用する上で、大きな武器となります。金沢大学大学院では、その第一歩として、博士課程教育リーディングプログラム「文化資源マネージャー養成プログラム」を始めました。多様な民族的伝統を保護する知識と技術はもちろん、それを広く現代に生かすための発想力をも備えた人材を、今後も育成していきたいと思っています。

用語解説

1 インドネシア
東南アジアに位置し、スンダ列島、モルッカ諸島、ニューギニア島西半部などから成る共和国。1945年にオランダから独立した。首都はジャカルタ。

2 バリ島
インドネシア南部に位置する島。住民の大部分を占める民族はバリ人だが、ジャワ人やインド人など他民族も見られる。

3 イスラム教
7世紀初めに、アラビアのメッカでムハンマド（マホメット）が創唱した宗教。ユダヤ教やキリスト教などと同じく一神教である。聖典はコーラン。

4 ヒンドゥー教
バラモン教がインドの民間信仰と習合して形成された、インドの民族宗教。

5 新粉
精白したうるち米を粉碎し、乾燥させたもの。粒子の細かいものを上新粉、粗いものを並新粉と呼ぶ。

伝統民芸を現代社会に いかにして蘇らせるか



馬 清清さん

ま・たおたお 金沢大大学院人間社会環境研究科博士前期課程1年。陝西省西安市中鉄一局西安子弟学校卒業。

Q なぜこの分野に進んだのですか

A 私の出身地、中国陝西省西安市は、古来、政治や経済、

文化の中心地として栄えてきました。秦や唐などの王朝が都を置きましたから、始皇帝や楊貴妃といった歴史上著名な人物にゆかりが深い場所もたくさんあり、観光客が多く訪れます。

一方、西安市の農村部に発達した手工芸や芸能などの民衆の文化には一般の関心が集まらず、衰退する傾

向にあります。政府の保護政策も十分とは言えません。故郷の伝統を後世に伝えるために自分に出来ることを学びたいと、私は文化人類学の研究を志したのでです。

Q 鏡味先生の研究室での研究内容を教えてください

A 民芸品、特に新粉細工について研究しています。これは、

花や動物などをかたどり、彩色した手芸品で、大きいものでは高さが60cmを超えます。以前は中国の農村部で婚礼や誕生、祭祀などのお祝いとして盛んに作られていましたが、現在は後継者が少なくなり、技術が途絶えてしまうのではないかと危惧されています。

長期休暇で帰省した時には、調査のために農村部を訪れ、新粉細工の職人にインタビューを行い、技術を記録しています。また、現地の高齢者に話を聞いたり、郷土資料館に保存されている新粉細工を調べたりすることもあります。どのような新粉細工を作るかは、行事ごとに慣習的な規定があったようなのですが、それを伝える資料が乏しいためです。更に、新粉細工を再興するため

に、現代に合うようにアレンジすることも計画しています。どう手を加えるべきかを考えるヒントとして、都市部の若者を対象に、新粉細工への興味の有無などについてアンケート調査をしたいと考えています。

時代はどんどん変わります。伝統を守ることは大切ですが、それに固執するばかりでは時代との距離は増す一方でしょう。伝統の良さや現代に通じる部分を見いだし、人々の暮らしの中に生きる民芸品として、再び新粉細工を蘇らせたいと思っています。

Q 日本の高校生へのメッセージをお願いします

A 私は日本に留学して、漆器や陶器などの伝統工芸品を初

めて見た時、その素晴らしさに言葉の失いました。技術は中国から伝わったかもしれませんが、中国のものとは全く異なる美しさを感じたのです。日本語の「侘」や「寂」という概念に近いかもしれません。

それ以来、私は中国の伝統工芸品を見る目が変わりました。今までそれほどよいとも思わなかった作品に新たな魅力を感じるようになったのです。日本という異文化に触れて、自分の視野が広がったことを実感しています。

自分の価値観に固執するよりも、別の価値観に触れた方が成長すると思います。皆さんも自国の枠を超え、海外の文化と積極的に向き合ってみてください。

私の高校時代

友だちと座右の書が 支えてくれた受験勉強

●1日8時間。私は高校3年間、自宅で毎日それだけ机に向かっていました。つらいと思ったこともありますが、続けられたのは、2つの支えがあったからです。1つは、学校の友だち。ほぼ全員が私と同じくらい勉強していましたから、私だけ音を上げるわけにはいかなかったのです。学校で互いに励まし合っていました。もう1つは、インドの詩人、R・タゴールの詩集です。問題が解けなくてイライラしたり、自分の力不足に悲しくなったりした時、いつも手に取りました。自然や人間に対する愛情をうたい上げた雄大な叙情詩は、大きな元気をくれました。

志望大の合格通知を見た時は、「やれば出来るんだ!」と、大きな自信を得られました。日本に留学してから困難にぶつかることはありますが、くじけそうにはなりません。高校時代に頑張った目標を達成した経験が、今の私を支えているのです。